君は「最後の晩餐」を知っているか(3)

布施 英利

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

区分	段落	内容
序論	1〜4	**イタリアの天才画家** ボッティチェリ、ミケランジェロらがいるが、一番に挙がるのはレオナルド・ダ・ヴィンチ。 **レオナルドの絵は「科学が生み出した新しい芸術」** ＝ 解剖学・遠近法・明暗法 「最後の晩餐」はなぜか「かっこいい。」と感じる。 衝撃がやってきて、それからじっくり分析する。 分析も名画を味わう楽しみの一つである。
本論（分析）	5〜9	**「最後の晩餐」の構図**
	10・11	**「最後の晩餐」と解剖学** レオナルドは解剖を通して人体の仕組みを知り尽くしていたので、心の内面までもえぐるように、手や、顔の表情、容貌を描くことができた。
	12・13	**「最後の晩餐」と遠近法** ①室内の空間を、遠くにいくにつれて小さく描く。 （効果）部屋に奥行きが感じられる。 ②遠近法の消失点がキリストの額になっている。 （効果）絵を見る人の視線が自然とキリストに集まり、誰が見てもこの絵の主人公はキリストだと思わせる。
	14	**「最後の晩餐」と明暗法** 描かれた部屋の明暗が、現実の光の方向と合致している。 （効果）描かれた部屋が、あたかも本物の食堂の延長にあるように見える。
	15・16	遠近法や明暗法によって、描かれた部屋が本物の部屋のように見える。 解剖学、遠近法、明暗法といった絵画の科学とその可能性を目のあたりにできることが、「最後の晩餐」を「かっこいい。」と思わせる一つの要因である。
結論	17〜21	**修復された「最後の晩餐」** 修復された絵にはもう細かい描写はないが、実際に絵を眺めると文句なく魅力的である。 細部がないために、かえって絵の「全体」がよく見えるようになった。レオナルドが絵画の科学を使って表現しようとしたものがよく見えてくるから、いきなり「かっこいい。」と思える。 五百年前の名画は今も生きている。芸術は永遠なのだ。

（1〜21は教科書本文における形式段落番号を表します）

確認テスト 教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 名画を味わうためにはその絵を見てまずどう感じたかが重要であって、分析は絵画を味わうこととは関係のない行為である。

イ 絵画の科学とその可能性を目のあたりにできることは、「最後の晩餐」を「かっこいい。」と思わせる要因とはいえない。

ウ 修復された「最後の晩餐」は、細部が剥がれ落ちて細かい描写が失われてしまい、以前と比べて全体がわかりづらくなった。

エ 「最後の晩餐」の修復によって、レオナルドが絵画の科学を使って表現しようとしたものが明快に見えるようになった。

〔　　〕

(2) 本文の説明のしかたに合うものを選びなさい。

ア 筆者は、「最後の晩餐」と他の作品との比較を中心に、分析された事実を客観的に説明している。

イ 筆者は、「最後の晩餐」に感じるかっこよさを述べたうえで、その描き方を分析しながら論じている。

ウ 筆者は、「最後の晩餐」を例に挙げて、芸術作品を保護していくことの難しさを主張している。

〔　　〕

(3) 次のそれぞれの描き方に用いられている絵画の科学を選びなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

① 描かれた部屋の明暗が、現実の光の方向と合致していることで、描かれた部屋が本物の食堂の延長にあるように感じられる。

② 室内の空間が遠くにいくにつれて小さく描かれていることで、描かれた部屋に奥行きが感じられる。

③ 人体の仕組みに関する研究にもとづいて、手や顔などが、その人物の心の内面までえぐるように描かれている。

④ 絵を見る人の視線が自然とキリストに集まり、この絵の主人公はキリストであると思わせるように描かれている。

ア 解剖学　イ 遠近法　ウ 明暗法

①〔　　〕 ②〔　　〕 ③〔　　〕 ④〔　　〕